

J.D. パワー報道用資料： 安全装備や先進技術の搭載数の多さは車両の商品魅力に貢献する

日本の新車商品魅力度調査で、ブランドランキングではレクサスが第1位

東京：2017年9月21日 — より安全な運転をサポートする機能の搭載数の増加に伴い、車両の商品魅力度が向上していることが、J.D. パワー 2017年日本自動車商品魅力度（Automotive Performance, Execution and Layout、略称APEAL）調査SMによって明らかになった。

今年で7回目の実施となる本調査では、自動車の性能やデザイン等、商品魅力度に関する評価を測定している。「外装」、「内装」、「収納とスペース」、「オーディオ/コミュニケーション/エンターテインメント/ナビゲーションシステム（ACEN）」、「シート」、「空調」、「運転性能」、「エンジン/トランスミッション」、「視認性と運転安全性」、「燃費」の10カテゴリー、合計77項目について、ユーザーが実際に所有しているモデルを評価した。商品魅力度を示す総合APEALスコアは1,000ポイント満点で表される。

2017年の業界平均の総合APEALスコアは、前年よりも9ポイント上昇し637ポイントであった。カテゴリーごとのスコアをみると、前年と比較し最も向上したのは「ACEN（608ポイント）」および「運転性能（646ポイント）」であり、ともに12ポイント向上した。次いで「空調（619ポイント）」および「視認性と運転安全性（643ポイント）」が11ポイント向上した。「燃費（631ポイント）」は他のカテゴリーと比較してスコアの向上幅が1ポイントと小さいが、ポイントが大きく低下した前年からは下げ止まった。

本年の調査結果より、車両一台当たりの安全装備や先進技術の平均搭載数が前年の1.9個から本年は2.4個へと、対前年比で26%増加したことがわかった。

尚、安全装置や先進技術の内容は下記の通り。

①死角モニタリング/警告システム、②車載ナイトビジョンカメラ、③衝突回避/警告システム、④ヘッドアップディスプレイ、⑤車線逸脱警告システム（レーンキープアシスト）、⑥パーキングアシストシステム（警告音/視覚センサー、カメラなど）、⑦自動駐車システム、⑧タイヤ空気圧監視システム

同時に、安全装備や先進技術の搭載数の増加に伴い、総合APEALスコアが向上する傾向があることも明らかになった（安全装備や先進技術がない場合のAPEALスコアは606ポイント、4つの場合は664ポイント、8つの場合は765ポイント）。

J.D. パワーのオートモーティブ部門シニアディレクターである川橋敦は次のようにコメントしている。

『安全装備や先進技術の車両への搭載は、ラージセグメントやミッドサイズセグメントから、ミニバンセグメントやコンパクトセグメントへと裾野が広がる傾向が確認されている。今後は軽自動車セグメントにも安全装備や先進技術を搭載した車両が増えていくことが予想され、安全装備や先進技術を搭載しているだけでは商品の差別化に直結しない可能性が出てくることも考えられる。』

セグメント別の主な調査結果：

- 軽自動車セグメント

総合APEALスコアは前年から11ポイント向上した（602ポイント）。

カテゴリー別スコアでは、全カテゴリーでスコアが向上し、かつ10ポイント以上増加したカテゴリーが7つあった。とりわけ大幅な向上がみられたカテゴリーは「内装および運転性能」の14ポイント、「収納とスペース」および「ACEN」の13ポイントであった。また、軽自動車は「燃費」のスコアが向上した唯一のセグメントであり、前年と比較し9ポイント増加した。

- コンパクトセグメント
総合 APEAL スコアは前年から 5 ポイント向上した (624 ポイント)。
カテゴリ別スコアでは、前年と比較して「燃費」が 9 ポイント低下したが、燃費以外のカテゴリは向上した。10 ポイント以上増加したカテゴリが 4 つあり、そのうち最も向上した (対前年比+13 ポイント) カテゴリは「収納とスペース」であった。
- ミッドサイズセグメント
総合 APEAL スコアは前年から 6 ポイント向上した (674 ポイント)。
カテゴリ別スコアでは、前年から 10 ポイント前後向上したカテゴリは 5 つあり、そのうち最も向上したのは「空調 (対前年+11 ポイント)」であった。
- ラージセグメント^{注1}
総合 APEAL スコアは前年から 3 ポイント低下した (713 ポイント)。
カテゴリ別スコアでは「燃費」が大きく低下し、対前年比で-18 ポイントであった。「エンジン/トランスミッション」も 4 ポイント低下した。一方で、「視認性」と「運転安全性」は対前年比で 3 ポイント向上した。
- ミニバンセグメント
総合 APEAL スコアは前年から 12 ポイント向上した (645 ポイント)。
カテゴリ別スコアでは、燃費 (対前年比- 3 ポイント) 以外の全カテゴリで前年から評価が向上し、8 つのカテゴリで 10 ポイント以上の増加がみられた。特に向上幅の大きかったものは「空調 (対前年+17 ポイント)」、「ACEN および運転性能 (対前年+15 ポイント)」、「シートおよび視認性と運転安全性 (対前年+14 ポイント)」であった。

注1 ランキング対象モデルの市場占有率が不十分のため、セグメントランキング公表対象外

2017 年ランキングのハイライト

ブランドランキングでは、レクサスが総合 APEAL スコア 747 ポイントで第 1 位となった。第 2 位はメルセデス・ベンツ (720 ポイント)、第 3 位はアウディ (714 ポイント)、4 位は BMW およびボルボ (705 ポイント) であった。

今回ランキングが発表された 4 つの車両セグメント別モデルランキングは以下のようになった。

- 軽自動車セグメント：ダイハツ ウェイクが 1 位、スズキ ワゴン R が 2 位、ダイハツ ムーヴキャンバスが 3 位
- コンパクトセグメント：マツダ デミオが 1 位、トヨタ アクアが 2 位、日産 ノートが 3 位
- ミッドサイズセグメント：マツダ CX-5 が 1 位、MINI が 2 位、スバル インプレッサが 3 位
- ミニバンセグメント：トヨタ アルファードが 1 位、トヨタ ヴェルファイアが 2 位、ホンダ オデッセイが 3 位

2017 年の日本自動車商品魅力度 (APEAL) 調査SMは、新車購入後 2～9 ヶ月経過したユーザー 22,924 人から回答を得た。調査対象の車両は全 16 ブランド、108 モデルであり、有効サンプル数が 100 サンプル以上のブランドおよびモデルをランキング対象としている。調査は 2017 年 5 月から 6 月にかけて実施された。

J.D. パワーが結果を発表する調査はすべて J.D. パワーが第三者機関として自主企画により実施したものです。2017 年自動車関連調査内容及び発表スケジュールは下記の通りです。

- 自動車を購入したユーザーを対象に、新車購入店の顧客満足度を測定した 2017 年日本自動車セールス満足度 (Sales Satisfaction Index、略称 SSI) 調査を本年 8 月に発表した。
- 自動車を購入したユーザーを対象に、購入後 2～9 ヶ月における車両の初期品質を調査した 2017 年日本自動車初期品質 (Initial Quality Study、略称 IQS) 調査を本年 8 月に発表した。

- ・ 新車購入店でサービスを受けた際の顧客満足度を測定した2017年日本自動車サービス満足度 (Customer Service Index、略称CSI) 調査を本年9月に発表した。
- ・ 今後1年以内に新車乗用車の購入を検討している消費者を対象に、次回購入検討車やブランドイメージ、新技術に対する興味など、消費者の意識や購買行動に関する情報を広範囲に収集した2017年日本新車購入意向者調査 (New-Vehicle Intender Study、略称NVIS) を本年9月に発表した。
- ・ 自動車メーカー純正ならびに市販ブランドのナビゲーションシステムの満足度を測定した2017年日本ナビゲーションシステム顧客満足度調査を本年10月に発表する予定である。
- ・ 自動車を新車で購入後37～54ヶ月が経過した個人ユーザーを対象に、直近1年間に経験した車両の耐久品質上の不具合を測定した、2017年日本自動車耐久品質調査 (Vehicle Dependability Study、略称VDS) を本年10月に発表する予定である。

*J.D. パワーが結果を発表する調査はすべて J.D. パワーが第三者機関として自主企画により実施したものです。

<J.D. パワーについて>

J.D. パワー (本社：米国カリフォルニア州コスタメサ) は、顧客満足に関するインサイト並びにパフォーマンス改善のためのソリューションを提供している国際的なマーケティング情報サービス企業である。毎年、世界中で数百万人にのぼる消費者やビジネス・ユーザーを対象に、品質や顧客満足に関する調査を実施している。北米、南米、ヨーロッパとアジアに計 17 の拠点を有する。アジア・パシフィックではシンガポール、北京、上海、バンコク、マレーシアに拠点をもち、日本、オーストラリア、中国、インド、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ、ベトナムで調査を行っている。また、J.D. パワーは Athene Li, Joseph Pacini, Murphy Qiao and Carsten Geyer の 4 人の創業者によって率いられる、ロンドンに本社を置く国際的なオルタナティブ投資会社並びにプライベート・エクイティ企業である XI0 グループの投資先企業のひとつである。詳しくは当社ウェブサイト <http://japan.jdpower.com> まで。

<当調査に関するお問い合わせ先>

(株) J.D. パワー アジア・パシフィック コーポレート コミュニケーション

住 所： 東京都港区虎ノ門 5-1-5 メトロシティ神谷町 (〒105-0001)

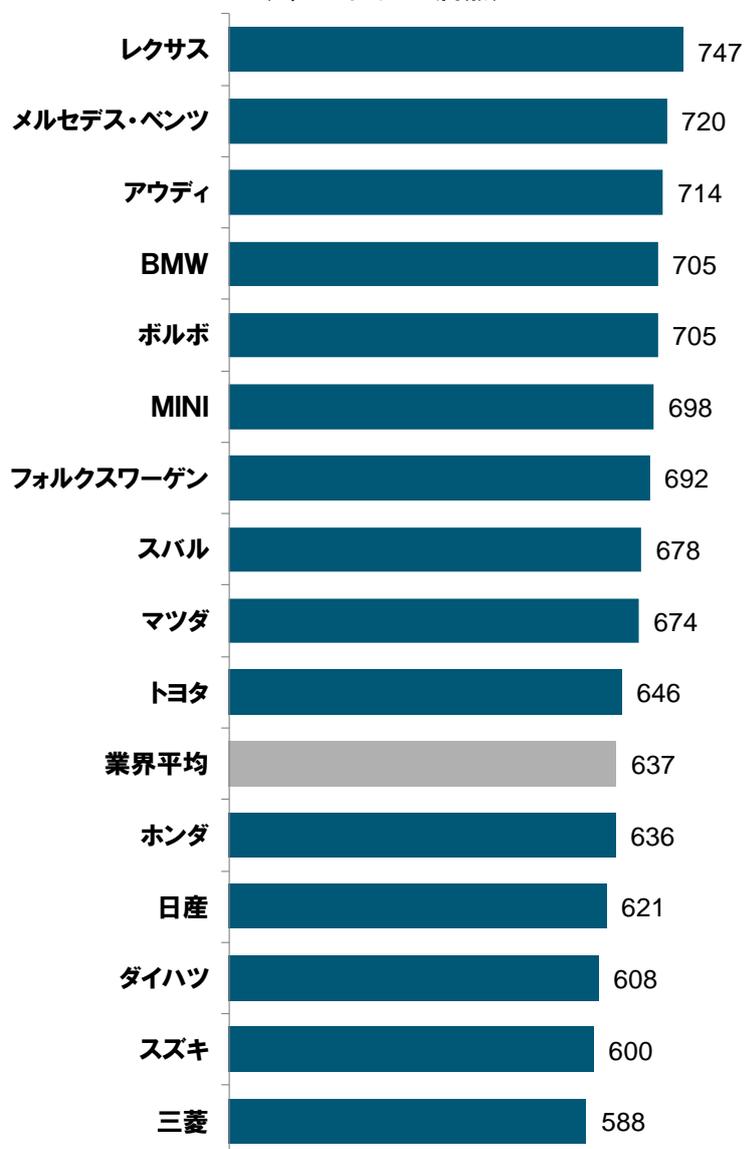
電 話： 03-4550-8060 F A X： 03-4550-8152 e-mail： cc-group@jdpower.co.jp

<ご注意>

本紙は報道用資料です。(株)J.D. パワー アジア・パシフィックの許可無く本資料に掲載されている情報および結果を広告または販促活動に転用することを禁止します。

J.D. パワー 2017年日本自動車商品魅力度(APEAL)調査SM

ブランド別ランキング (1,000ポイント満点)



注) フィアットは少数サンプルのためランキングには含まれていません。

出典: J.D. パワー 2017年日本自動車商品魅力度(APEAL)調査SM

本紙は報道用資料です。J.D. パワーの許可無く、本資料に掲載されているデータを広告および販促活動に転用することを禁止します。
報道で本資料に使用されている図表およびグラフを引用する際には、必ず、上記出典を明記して下さい。

J.D. パワー 2017年日本自動車商品魅力度(APEAL)調査SM

セグメント別ランキング トップ3モデル

軽自動車

第1位: **ダイハツウェイク**
スズキ ワゴンR(計)
ダイハツ ムーヴキャンバス

コンパクト

第1位: **マツダ デミオ**
トヨタ アクア
日産 ノート(計)

ミッドサイズ

第1位: **マツダ CX-5**
MINI(計)
スバル インプレッサ(計)

ミニバン

第1位: **トヨタ アルファード(計)**
トヨタ ヴェルファイア(計)
ホンダ オデッセイ(計)

出典: J.D. パワー 2017年日本自動車商品魅力度(APEAL)調査SM

本紙は報道用資料です。J.D. パワーの許可無く、本資料に掲載されているデータを広告および販促活動に転用することを禁止します。
報道で本資料に使用されている図表およびグラフを引用する際には、必ず、上記出典を明記して下さい。